

令和 3 年に注意を要する病害虫

道総研	中央農業試験場	病虫部	予察診断グループ・病害虫グループ
道総研	十勝農業試験場	研究部	生産技術グループ
道総研	上川農業試験場	研究部	生産技術グループ
道総研	道南農業試験場	研究部	作物病虫グループ
道総研	北見農業試験場	研究部	生産技術グループ
道総研	花・野菜技術センター	研究部	生産技術グループ

1. 成果の概要

北海道病害虫防除所、道総研各農業試験場および道農政部技術普及課等で実施した病害虫発生予察事業ならびに試験研究で得られた結果から、令和 3 年に特に注意すべき病害虫について報告する。

2. 令和 2 年の病害虫の発生状況

令和 2 年度は春季が高温に経過したため、小麦の赤さび病の発生がやや多かった。ネギアザミウマは、夏季が高温に経過したことから多発し、キャベツ等の葉菜類でも被害が認められた。8 月の高温により水稻の紋枯病が多発した。りんごの黒星病は、5～6 月の重点防除時期および 8 月にまとまった降雨があり、やや発生が多くなった。

主要病害虫のうち、令和 2 年に多発となったものを表 1 に示した。

表 1. 令和 2 年に多発・やや多発した主要病害虫

作物名	病害虫名
水稻	紋枯病、セジロウンカ
秋まき小麦	赤さび病
てんさい	ヨトウガ（第 1 回）
たまねぎ	タネバエ・タマネギバエ、 ネギアザミウマ
ねぎ	ネギアザミウマ
ブロッコリー	コナガ
りんご	腐らん病、黒星病

*下線は多発生となった病害虫を示す

3. 令和 3 年に特に注意を要する病害虫

(1) 水稻のヒメトビウンカ

水稻のヒメトビウンカは、イネ縞葉枯病を媒介する重要害虫である。令和 2 年の発生量は平年並であったが、近年多発傾向が続いている地域では発生が多くなった。本年 8 月以降に発生が多かった地域では越冬幼虫が多い可能性があるため、発生状況に注意する必要がある。縞葉枯病発生地域では、ヒメトビウンカに有効な薬剤を使用する。

(2) とうもろこしのツマジロクサヨトウ

ツマジロクサヨトウは、令和 2 年 8 月に道内で初めて成虫の誘殺が確認され、その後、とうもろこし圃場で幼虫による食害が確認された。本種は低温に弱く、道内では越冬できないと考えられるが、次年度以降も北海道へ飛来する可能性がある。早期に飛来した場合には、大きな被害となる危険性があるので注意が必要である。

本種の被害が疑われる場合は農業改良普及センターや農業試験場、病害虫防除所に連絡していただきたい。防除時期が遅れると防除効果が得にくくなると考えられるため、早めに薬剤防除を実施することが重要である。

(3) 野菜類のネギアザミウマ

令和 2 年は夏季高温に経過したため、少雨に経過した地域ではたまねぎおよびねぎで発生が多くなった。また、たまねぎで多発した地域では 8～9 月どりの作型のキャベツで結球部被害が多発し、大きな被害とな